

調布市大学プラットフォーム

ボランティア

養成講座

参加
無料

台風19号における調布市災害ボランティア活動 — 市民主体の活動を考える

先の台風19号では、調布市内でも浸水被害が発生し、復旧のためのボランティア活動が展開されました。

こうした非常に身近な事態をふまえ、本講座では、「災害ボランティア」を主軸として、活動実施に至る実際の現場や具体的な作業の様子などをご紹介します。また、そうした活動の意義についてお話ししながら、私たち一人一人にできることは何か、考えていきます。

日時

令和元年 **12月20日** (金)

18時00分～19時50分

場所

電気通信大学B棟101教室

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

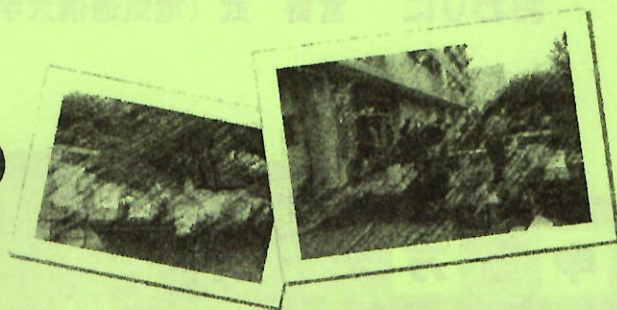
(京王線・調布駅下車、中央口を出て北側「電通大通り」を直進、徒歩5分)

対象

- ボランティア活動をこれから志す一般市民の方
- ボランティア活動に既に身を置いている一般市民の方

定員

20人 (先着順)



主催：国立大学法人電気通信大学
協力：調布市大学プラットフォーム

UEC
TOKYO

電気通信大学
The University of Electro-Communications

講座内容

ご挨拶 田中 勝己（電気通信大学・理事）

講座の趣旨説明・講師紹介 司会：佐々木 啓子（電気通信大学・教授）

1 第1部 調布市の災害ボランティアを考える

災害時における市民主体の活動とは何か

嶋澤 順子 氏（東京慈恵会医科大学・教授）



台風19号による浸水被害と災害ボランティア活動の実際

葛岡 敦 氏（調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター）

その時、慈恵医大看護学科はどうしたか

嶋澤 順子 氏（東京慈恵会医科大学・教授）



市民活動団体・企業・大学の強みを活かした災害時における市民活動の実際として、調布市災害ボランティアセンターからみた災害時活動の経緯（被災者のニーズのキャッチからボランティアセンターを閉じた後の地域とのつながりまで）と、ボランティア活動ビギナーである東京慈恵会医科大学医学部看護学科のアクションについてお話しします。

2 第2部 ボランティアとは何か

ボランティア活動の原点

— 「支える」「支えられる」社会から、「互いに支えられる」社会への発展を目指して

市川 一宏 氏（ルーテル学院大学・学長）



東京オリンピック・パラリンピックの源流には、DIVERSITY（多様性）とINCLUSION（共生）という考え方があります。これは、新たな社会づくりを意味し、それを推進する大切な挑戦がボランティア活動です。今一度、ボランティア活動の意味を考えてみませんか。

3 第3部 受講者・講演者による意見交換

それぞれの立場でできること、取り組みたいことをこの地域から発信！

進行：水戸 和幸（電気通信大学・准教授）

受講者・講演者が、自らの活動実績等をふまえながら意見交換を行い、被災地に臨み、それぞれにできることは何か、考えていきます。

おわりに 宮崎 武（電気通信大学・社会連携センター長）

申込方法

令和元年12月5日（木）午前9時00分より申込開始

▼ WEB申込フォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S94024974/>

▼ お問い合わせ（総務企画課）

☎ 042-443-5880（平日9：00～17：00）

✉ desk@ccr.uec.ac.jp ④ <http://www.ccr.uec.ac.jp/>

